



海岸に漂着したゴミを拾って調査し、環境団体へ報告 ～鹿児島県 立神 海の風 こども園～

海には人間が捨てた大量のゴミが漂流しており、海を汚すだけでなく、魚やクジラなどがそれを食べて命を落としてしまうといった深刻な事態が起きています。

鹿児島県枕崎市にある「立神 海の風 こども園」では、学童保育に通う小学生たちが、近くの海岸に漂着しているゴミを集めて持ち帰って調査し、そのデータを環境団体JEANへ報告する活動を毎年行っています。

今年は6月に、32名の子どもたちが大きな袋を手に、海岸に落ちているゴミを拾い集めました。わずか30分ほどで6袋が満杯になるほどのゴミの量。同園園長の酒匂明彦園長は、「今年はペットボトルのゴミが増えましたね。日本だけでなく、中国、韓国、遠くは東南アジアの国々から流れ着いた物もあります」と



海岸に落ちているゴミを大きな袋に次々と集めていく

「どうしてゴミを捨てるんだろう？」
ゴミ袋6個があつという間に満杯に。

ゴミの国名、種類、個数を調べて、環境団体JEANへ報告します



海岸に落ちているゴミを大きな袋に次々と集めていく

「どうしてゴミを捨てるんだろう？」
ゴミ袋6個があつという間に満杯に。

ゴミの国名、種類、個数を調べて、環境団体JEANへ報告します

話します。

子どもたちに感想を聞くと、「なぜ、こんなにたくさんのゴミを海に捨てるんだろう？」「ゴミを拾うことでの、海がきれいになればいいと思った」といった声があがりました。

「海に国境はありません。海に漂う大量のゴミを魚やさまざまな生き物が食べてしまい、その魚や生き物を人間も食べるのであります。だから、海を汚すこと、自分たちの生命を脅かすことになるということを、波の音を聞きながら子どもたちに話しています」と語る酒匂園長。こうした活動を通して、子どもたちは自然環境を大切に守る大人へと成長していくことでしょう。

そらべあ基金
事務局の
つぶやき

おかげさまで「そらべあ基金」は 今年10周年を迎えました

2006年、東京都が中心となって実施された「TOKYOソーラーシティプロジェクト」のキャンペーンキャラクターとして、ホッキョクグマの兄弟「そらべあ」が誕生。その2年後の2008年に、NPO法人として「そらべあ基金」がスタートし、現在の「そらべあスマイルプロジェクト」も始まりました。

それから10年を経て、スマイルプロジェクトによるそらべあ発電所の寄贈園は日本中に62カ所、削減したCO₂の量は杉の木約35,000本分、環境教育に参加してくれた子どもたちの人数は約8,500名に達しました。

これからも「そらべあ基金」はさまざまな活動を通して、子どもたちが安心して暮らせる未来を目指して頑張っていきます。皆さまのご支援を引き続きよろしくお願いします。



そらべあソポーターズクラブ

- プレミアムサポーター ソニー損害保険株式会社
 - オフィシャルサポーター ソニー生命保険株式会社
 - そらべあ基金サポーター 株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント／
株式会社毎日新聞社／ゼロワットパワー株式会社
 - そらべあ基金応援団 株式会社東急ハンズ／日本風力開発株式会社／
株式会社ディノス・セシール／株式会社シール堂印刷／
株式会社NTTスマイルエナジー
 - 個人・ファミリーサポーター 29名
- (2018年5月31日現在)

読み終わったら、捨てずに回し読みしてね。



そらべあ便り vol.35

2018年6月発行
編集: 青木一夫
デザイン: 草彅聰子
NPO法人 そらべあ基金
〒105-0004
東京都港区新橋2-5-6
大村ビル8F
TEL : 03-3504-8166
FAX : 03-5157-3178
<http://www.solarbear.jp>

そらべあ便り

Solarbear Newsletter | Vol.35

そらべあは
みんなと一緒に
10周年

© Shinzi Katoh

www.solarbear.jp



宮城県・乳幼児保育園ミルクで 「そらべあ発電所」寄贈式典を実施

6月6日(水)、宮城県石巻市「乳幼児保育園ミルク」に62基目の太陽光発電設備「そらべあ発電所」が完成し、その寄贈記念式典が行われました。同園は1995年「保育園あいはら」という名称で設立されましたが、2011年の東日本大震災で園舎が全壊。2015年に復興住宅などが新しく建てられている現地域へ移転し、現在の名称で再建されました。20年以上培ってきた保育サービスのノウハウを活かして、震災後の生活再建を目指す家庭に寄り添つて運営されている保育園です。

式典には0~4歳児56名と先生方、園児の保護者でもある運営委員会の会長佐々木様、そして、今回協賛してくださったソニー損害保険株式会社の皆さんにご出席いただきました。

会場は園児たちが描いたそらべあイラストの塗り絵が飾られ、とても華やかな雰囲気。紙芝居や

宮城県石巻市 乳幼児保育園ミルク



相原園長(左)と園児代表よりサプライズプレゼントを受け取る
ソニー損保・経営企画部広報課長の小原様(右から2番目)と
そらべあ基金・青木理事(右)



そらべあ兄弟の“涙が流れる” ホームページヘリニューアル



クイズ、発電実験などをみんなで楽しみました。また、式典の終わりのほうで、3、4歳児のみんながこの日のために4月から一生懸命練習してくれたというお礼の歌を大きな声で合唱。“世界中のこどもたちが一緒に笑つたら…”という歌詞を聞いて、「そら」と「べあ」たちの涙顔も、一瞬、笑顔に変わりそうでした。

ご出席いただきました皆様、どうもありがとうございました。



「世界中のこどもたちが」を手話付きで元気に歌ってくださいました

2018年5月、そらべあ基金はホームページをリニューアル。トップページではホッキョクグマのそらべあ兄弟が新しいイラストで登場。「そら」と「べあ」の目には涙がボツンと流れ、氷の海がゆらりゆらりと動いています。

今回のリニューアルでは、より見やすく、わかりやすく、使いやすいホームページを目指し、デザインやメニュー構成を見直して新コンテンツも追加しま



新しくなったそらべあ基金のホームページ。
スマホからも見やすくなりました。
ぜひご覧ください。



子どもにも大人にも、 環境授業&講座を実施しました

「学びのフェス2018春」に出演

4月3日(火)、小学生向けに、科学技術館(東京都千代田区)で開催された「学びのフェス2018春」(毎日新聞社・毎日小学生新聞主催)にそらべあ基金が参加。『ソーラーLEDランプ作りに挑戦 自然エネルギーでそらべあの涙を止めよう!』を実施しました。8回目となる今回は春休み中の約1,500人の親子が来場し、そらべあ基金のブースには小学生41名が参加してくれ、子どもたちは地球温暖化について学んだり、工作を楽しんだりしました。



真剣な表情でお話を聞く小学生たち



クイズにも積極的に答えてくれました

社会人向け勉強会で「そらべあ環境講座」を開催

4月20日(金)、お仕事帰りに学ぶ社会人向けに、東京都内で開催された勉強会にそらべあ基金が参加。「そらべあ兄弟と考える地球温暖化と再生可能エネルギー」講座を実施しました。「この100年間で地球の気温はどれくらい上昇した?」「地球上の氷がすべてとけたら、どれくらいの都市が海へ沈む?」といったシミュレーション動画を紹介したり、国際社会が手を取り合ってCO₂削減に取り組む必要があることなどを話しました。これからも機会があれば、大人向けの環境講座も開いていけたらと思います。



大人の環境講座にもぞらが登場しました



Solarbear
そらべあ
calendar
2018



©Shinzi Katoh

7

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4			
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
					30	